

静岡市葵区小河内の大井神社で11日、春の例祭が開かれた。今年は4年に1度のうるう年の大祭で、氏子らと一緒に神の使いである雌雄一對のヤマイヌ（オオカミ）の木像が集落を巡った。

木像ヤマイヌ 集落練り歩き

葵区・大井神社で例祭

2020年2月12日朝刊

回答欄が足りない場合は、裏面に記すこと。

①ニホンオオカミの絶滅した経緯を調べ、自然保護と地域経済について考えるところを述べよ。



焼き畑をしていた県内外の山間地域では、ヤマイヌは人を襲う恐ろしい存在である一方、農作物を荒らすシカやイノシシなどを退治する神聖な動物として信仰の対象になり、多数の神社や寺院で祭られていた。同地区や隣接する田代地区では、傷を負ったヤマイヌを住民が助けたところ、イノシシの害が無くなったり、シカの肉を持ってきたなどの伝承が残っているという。

五穀豊穡を祈願

ヤマイヌの木像を手に集落を練り歩いた大井神社の春の例祭。静岡市葵区小河内（写真部・坂本豊）

祭典では神職の祝詞の後、日本神話の神であるサルタヒコを先頭に列になつた参加者が、横笛や太鼓の音に合わせみこしやヤマイヌの木像を手に集落を練り歩き、五穀豊穡（ほづじょう）などを願った。神社の境内では、地元住民らが「鶴亀」など3演目の神楽舞を奉納した。

②自分の住んでいる地域に伝わる「動物報恩譚」の伝承を調べ、どのように文化が継承されていくのか考察せよ。

③日本神話の神であるサルタヒコについて調べ、他国の神話において類似性の高い神との比較を考察せよ。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石 克巳（静岡県立静岡高校 教諭）

（高校／国語）

<参考>①＝環境学、地域経済学、生物学に関する問題、②＝日本文学、文化学、民俗学に関する問題、③＝日本文学、神話学、比較文化学に関する問題